

第1回研究評価委員会(議事概要)

日 時：2008年2月28日(木)

10:30～11:30

場 所：NIRA大会議室

議 題： 2008年度研究事業計画について

研究評価委員：大来 洋一 政策研究大学院大学教授

(出席者) 北岡 伸一 東京大学大学院法学政治学研究科教授

小林陽太郎 富士ゼロックス(株)相談役最高顧問 (*委員長)

福川 伸次 財団法人 機械産業記念事業財団会長

NIRA：牛尾会長、伊藤理事長、加藤専務理事、柳川理事、小出監事、
井上研究開発部長

配布資料：資料 2008年度研究事業計画(案)

*研究評価委員より出された意見は、以下のとおり。

1. 新しい研究テーマについての提案

- ・新しい公務員制度 (public servant) のあるべき姿について、総合的に情報を集めて、国際比較してはどうか。あるべき姿をまず考え、その下で詳細を考えるべき。天下りの問題など、社会全体としてみて考えるべき。アメリカの公務員制度はユニークであるにもかかわらず、それをモデルにしすぎている(北岡委員)。
- ・10年後の公務員制度がどうなるか心配。公務員だけがアメリカ的な扱いを受けてもうまくいかない。日本の場合、民間企業でも一定の年齢になると子会社に行く人と、最後まで行く人の両方が可能な制度になっている。ある程度長いスパンで生活の面倒を見るという日本の社会的風土と相容れるような改革であること、かつ小さい政府に向けて合理的な処遇となるような制度とすることなど、いろいろなことを考えなければいけない。非常に難しい問題だが、やる価値はある(大来委員)。
- ・政治、行政、シンクタンク、ジャーナリズムの政策形成力が落ちている。NIRAには政策形成力を刺激する活動を行ってほしい。政治のねじれから、国民の間には政治への不満がある。国会の定員改革や一院制への改革など、国全体の制度設計を検討する必要があるのではないか(福川委員)。
- ・利害関係者が多い問題は、利害のないNIRAが行うとよい(北岡委員)。

- ・大事な問題であればあるほど、政策形成というよりは、むしろ政策決定の段階できいてくる。N I R Aらしい大きな研究として、ガバナンスや政策形成、公務員の問題も絡め、政策決定の仕組みについての研究を加えてはどうか（小林委員長）。
- ・政策は政治家が決めている。政策だけでなく日本の政治システムも研究した方がいいのではないか（北岡委員）。
- ・G 8サミットの時代ではなくなっている。中国、インドを含め、どのようなグローバル・ガバナンスが必要か、考えていく必要がある。また、アジアとつきあっていくために、日本はアジアを知る必要がある。たとえば、昔、電通で、アジアの価値観の比較調査を行ったことがある。こういった研究を継続的に行い、データとして持っている、N I R Aの存在感も生まれるのではないかと（福川委員）。

2. N I R A研究事業計画書について（資料参照）

- ・高齢化社会の問題を大きな視点から捉えて考えてほしい。一つは将来の金融構造がどうなるかである。数年前にC S I Sが中心となり（日本ではJ E T R Oが窓口）、伊藤理事長や竹中平蔵氏なども参加し、将来の金融構造について議論した。貯蓄不足、金利上昇、株価暴落などから大混乱になるという懸念がかなり出されている。もう一つは、先進国は成長しないので、年金などを運用して生きていかざるをえない中で、新興国への投資をどうすべきかは、大きな論点である（福川委員）。
- ・医療崩壊が言われ、勤務医が大変な状況にある。また、小児科、産婦人科など、刑事・民事裁判になりそうな分野は、医者が足りなくなっている。社会保障制度のサステナビリティからも問題である（大来委員）。
- ・産業としての医療に限定せずに、総合的な医療制度のあり方を議論する必要があるのではないかと（小林委員長）。
- ・農業については、日本がどこから輸入するのかが大事である。中国が輸入超過になることは、日本の食糧供給にどういう影響を与えるのか（大来委員）。
- ・農業に関連し国際的な水資源の問題も重要である（福川委員）。
- ・現状の統計制度は、社会の実態にあっていない。重要な課題である（北岡委員）。
- ・「日本の課題」について、いろいろなテーマを選定し対談を行い、大きなビジョンをわかりやすい形にまとめて発信していくというのは、議論の入り口として、おもしろいのではないかと。また、対談は、網をはり、情報を吸い上げる形で行い、いずれプロジェクトに生かしていきたいとのことであるが、最近の対談シリーズでは、教育の問題がクローズアップされている。こういった問題のフォローアップも必要

ではないか（北岡委員）。

- ・「対談シリーズ」や「政策レビュー」を政治家に送ってはどうか（福川委員）。

3. 研究方法について

- ・研究テーマはどうやって選ばれるのか。経済についてのテーマが多すぎないか（北岡委員）。
- ・今提案された研究の本数を絞り、その他の研究を行ってはどうか（福川委員）。
- ・初年度大きな研究をするとしたら、7本の研究を2～3本にしてもいい（小林委員長）。

2008年度研究事業計画（案）

N I R A研究開発部

2008.2.28

1. 研究会方式（2008年度新規事業）

（1）方式

4～5名の研究会委員+N I R A研究員（主担当一人＋支援）

（2）必要費用

1プロジェクト100～250万円程度

（3）研究成果

報告書を公表（必要があればシンポジウム）

（4）テーマ案

1) 高齢化、グローバル化に対応した安定成長を支える新しい日本の経済構造

2) 社会経済構造の変化に対応した統計制度

3) 変化する日本型の雇用形態と求められる政策対応

4) 変化する若年層と社会への取り込み

5) 人口減少に対応し地域活性化を実現する政策対応

6) 少子高齢化社会に対応した日本の医療産業の考えかた

7) 農業

2. 研究会＋独自調査（アンケートなど）方式（2008年度新規事業）

（1）方式

研究会にアンケートなどの独自調査を追加

（2）必要費用

1プロジェクト2000万円

（3）研究成果

報告書（必要があればシンポジウム）

同時調査の個票提供

(4) テーマ案

1) 高齢化社会に対応した制度設計の見直し

3. 継続研究事業

(1) 日中韓F T A

- 日中韓のF T Aの経済分析
- 既存のF T Aとの連携
- 今後の日本のF T A戦略

(2) 都市行政評価

- 都市行政評価ネットワーク会議
- 地方自治体の個別事業の相対評価

4. モノグラフ

(1) 方式

- 個別分野を特定してモノグラフ・シリーズとしてまとめて公表
- 単発のモノグラフを公表

(2) 必要経費

- 原稿執筆料の支払い

(3) 研究成果

- ネット上の情報発信

5. N I R Aからの情報発信 (継続事業)

(1) 理事長対談

(2) 政策レビュー

6. 試行的な研究手法

(1) 理事長長時間対談の商業出版 (理事長対談の拡張版)

- 日本の課題としてテーマを選定
- 有識者10名程度を特定し、理事長による長時間インタビューを実施
- 外部による編集を行い商業出版

(2) N I R Aシリーズとして商業出版

- 日本の課題としてテーマを選定
- 当該分野の専門家、有識者を特定

--N I R Aによる執筆内容の設計と執筆支援
--N I R Aシリーズとして商業出版

7. その他

(1) 地方シンクタンクとの連携